

青山同窓会
会報

発行所
青山同窓会
新潟市岡屋下川原町二
新潟高校内
印刷所 オリオン印刷機
0252-83-2151

九十周年ごくろうさん

青山同窓会会長 鍵 富 清一郎



昨年、皆さん同窓の暖か

いご協力により、創立九十周年という一つの節目を越えることができました。本当にありがとうございます。今年には全員が着席できる総会になりましたので、ゆっくりと、話はずむだろうと楽しみにしています。

青山随想

「遠くへ行きたい」、これは人間一生のある時、また人によっては度々抱く願ひではあるまいか。動物や鳥も自分のなわ張りを離れてさまようこともあらしむが、それはあくまでも本能によるものであり、人間のように想像力によって「遠く」に憧れるのではないようである。

黄海の水平線に沈みゆく夕陽を見ながら今の北朝鮮で育ったわたしは、日本海の凄烈な日没を見る度に、いまだに

「遠くへ行きたい」強い衝動に襲われる。祖先の日本人は、月を見て遠くへ憧がれ数々の月の名を残している。「十五夜の月」、「いざよいの月」(十五夜よりやおくれて出るの、ためらいながら出る月の意味)、「たちまちの月」(十六夜の次の夜、縁に立つたり、戸口に出たりして立つ

遠くへ行きたい

60回 上杉 雅之 (校内幹事)

「遠くへ行きたい」強い衝動に襲われる。祖先の日本人は、月を見て遠くへ憧がれ数々の月の名を残している。「十五夜の月」、「いざよいの月」(十五夜よりやおくれて出るの、ためらいながら出る月の意味)、「たちまちの月」(十六夜の次の夜、縁に立つたり、戸口に出たりして立つ

て「ありあけの月」となる。(講談社版「日本大歳時記」から一部借用)月なくして日本文学はなかったといえば誇張であろうか。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

再び本校で勉強させていただくことになりました。前回は四十二年一月から四十六年三月まで四年三ヶ月、通信制課程の主事(教頭)として勤務いたしましたので十二年振りの「帰り新参」ということになり。この間、教育委員

に終了することができました。クラブ活動もまことに活発であり、放課後などの賑わしい状況は夫へん喜ばしいことと思っております。今年の県高

ヨロロッパ人は水平線の彼方に憧がれ、大航海時代を現出して新大陸を発見。パソロミニ・ジラス(喜望峯発見)コロンパス(アメリカの西印を発見)、バスコ・ダ・ガマ(インドのカリットに到着)、アメリカゴ・ベスブッチ(南アメリカに至る)そしてマゼラン(世界一周成功)など、そ

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

の心を地球上に残したのも多い。やがて世界は植民地時代、科学の発展と共に産業革命を起し近代文明を築きあげたのである。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。



ごあいさつ
学校長 鈴木 昭二



二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

二人を抱いて行きました。鍵富会長さんもお出席下さい。すばらしく、華やかな体育館開きでありました。

《追悼》 川上喜八郎君

45回 白倉 丘



川上喜八郎君との五十年の交遊を思う時、いつも浮ぶのは「君子の交は淡きこと水の如し」という言葉である。実

に淡泊であり、しかもその深い友情は終始かわることがなかった。まさに彼は君子であった。

別れがこのように早くやって来るとは思いもよらなかった。思い出を語るには時が必要である。とりあえず、二度目の入院の際、病室を訪れた

一、「おれ、癌だよ」
二回目か三回目に訪れた時であった。

「おれ、癌だよ」という思いがけない言葉に、一瞬遅す言葉につまってしまった。

「先生も驚く程治療の効果があつて、傷はきれいになつたのですぐ退院出来るとおつしやつておられたから大丈夫だよ」というと、「うん、また命を授けて貰つたようなものだな」と、一抹の寂しさは感じられたものの淡々と語つたのである。

自ら癌と語り、さりげなく口に出すまでに、どのような

思いをしたのであろうか……。

二、退院後の夢
退院が近づいた頃、やはり奥さんと三人の時に、退院して体力が回復したら……という話になった。彼の語つた夢は三つあつた。

(1) 妙高高原に山小屋を作つて、晴耕雨読の境を楽しみたい。

(2) 武者小路の「新しき村」の系譜を継ぐ村が茨城にある。そこを訪ねてみたい。

(3) 宮沢賢治記念館が十月開館したという、そこへ是非行ってみたい。

三、美術館
大変気嫌よく元気な時があつた。市美術館の設計が決まつた時である。緑と美術館は市長としての夢であつた。

完成したら、奥さんのひそみにならつて、彼の写真を胸に訪れたいと思つている。

「敷章はいらない。葬式は一輪の花で送つて貰いたい。子どもたちへ——お母さんを美しく豊かに老いさせてくれ——」という趣旨のことを既に十月の日記の中に書いていたと、一月二十日昼訪れた時に承つた。

その夜肉親に囲れて静に逝つた。「笑いを含んで地に入る」とは彼の如き死をいうのであろう。

実行委員長 卒業之記

52回 筑波龍二

昭和55年度総会の実行委員長をおおせつけられてから三年間、なんとかその任を果たすことが出来ましたことは、ひとえに実行委員各位及び校内関係職員など、多くの皆様方のご協力のおかげと心から感謝申し上げます。

私が実行委員長を命ぜられた年から、総会は、九年連続して会場としてきたキャバレー香港から、ホテルオークラに変えて開催することになつたのは、種々意見があつた結果でしたが、要は同じ場所でも何回もやればどうしてもマシネリ化するし、飽きられることになるのは避けられない現象でしょう。香港とオークラとは万代橋をはさんで対角線に位置する、市内の代表的

な施設ですがその性格は全く異なる会場であります。ところ変われば何とやらで、総会のメインイベントたる懇親会は場内の配置からその内容に至るまで、相当の変化が出て来ます。従つて随分気を使つたものでした。ところが予想を大きく上回る出席者数となつた為、料理が不足(量より質を重視)し、たくさん苦情を頂戴いたしました。ガツクリ来た迷委員長は、二年目は白旗をかかげました処、鍵富会長さんから「名譽挽回の為、もう一年やりなさい」と叱咤され再びやることとなり

成績で何とか及第させて頂きました。そこで三年目は若い期にバトンタッチを思い、その旨申し出ましたら、又々会長さんから「高校は三年制だから、君も三年やらなければ駄目です」の一声でチョン……。三年目は創立九十周年の大事業と重なりましたが通常総会も無事済みますことが出来ました。ようやく三年生を終了し、今年卒業させて頂くことになりました。昔在学中は劣等生代表でした。そのつぐないを何とか果たせたのかなあと独言で、手酌で一杯……春の宵でした。多謝

小日向先生と堀切菖蒲園

50回 村山 政光

(松之山町長)

新潟日報の上村光司氏から原稿の依頼を受けたのは六月の十日頃で、同二十三日に小日向先生と房州白浜でお会いすることが決まっていたので、執筆はその後にしよう、同夜先生に氏の手紙をお見せすると、一高東大生の上村氏の当時のことは、先生にはとんと思ひ出がなからしいのにはいささか驚いた。先生曰く、その頃は成績に依つて教室の席順が決まっていたので、図体の大きい運動部の猛者達が

とかく前に座り、青白き秀才少年は壁族と称して後方についてから目立たない筈だ、と。我等鈍才には何となくほほえましいお話でした。さて話は昨秋に戻るが、松之山町有林を都会の人から買って頂く分収林計画のパンフが出来たので、当時県出納長の鶴田寛氏を訪ね、東京方面での知人の紹介を乞ふと、小日向先生が葛飾区長として初めてお会いしたのが九月中

ば、さすが区長さんは元教育畑、分収林プランよりは小学校の子供達の交歓会をやるうと切り出されたので、それではその子供達が松之山へ来る時に、堀切菖蒲園の菖蒲の根を分けて持つて来て頂きたいと私がお願いしたので、事の始りである。その後十月中旬、助役さん区長室長さん社会教育課長他二三名が来町され、本年五月に教育長さん、公園課の係長さん等数名が来られて計画は総て出来上り、目下のところ、七月中旬花菖蒲三百株かきつばた五百株を公園課の職員が持つて来られ、八月三日より六日まで葛飾区の四年五年の子供三十名が地元の子供三十名と一泊はキャンプ一泊は地元の子供の家庭に民宿、一泊は中学の寄宿舎に合宿と決まつた。白浜の区の家開きに招かれて飲む程に酔うほどに話はずきない。今は亡きシャモ教官、鍋中さんのこと(鍋茶屋の中尉さん)、十日町地方事務所長時代、選挙の事、行政の事等々。最後に一言、先生はつい最近まで自分のあだ名「こけ猿」をご存じなかつた様子だが、これは決して小生がお教えしたのでないことを断つて置く。(二十四日白浜にて)

《追悼》 阿部利三郎先生

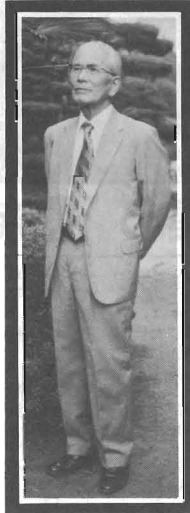
50回 一柳俊夫

旧制新潟中学校に昭和四年から一九年二月まで在職された阿部利三郎先生が昨年六月八日午前六時三〇分、郷里の村上市において逝去された。七七歳であった。間もなく一周忌を迎える。

先生は白哲の上品な紳士であつたが、失礼にも私達は「青ブタ」のニックネームを奉つていた。先生はそれが耳に入つても気にされず、眼鏡の奥にいつも微笑をたたえておられた。先生の国語の授業は、ひとりで陶醉されるかのよう

歌とならんで私の拙いそれが掲載された『創立五十周年記念誌』（昭和一八年）は今でも大事にもっている。

ガタルカナルに死闘うちづくその間をも安らに学ぶ身をし思へや
先生はこう歌われて私達を励まして下さつたが、しかし、



状況はますます悪化し、先生は家庭の事情もあつて村上へ疎開され、旧制村上中学校へ転勤された。戦争が終わつてからも先生はずつとそこに住まれ、自然を愛でながら短歌をつくつておられた。

愛好者の同人誌「朝茜」の中の一詩

あら海の磯の岩むらうつ波のしぶき落ちては雪の佐波見ゆ（昭和五二年に私がいだいた先生の賀状の歌）

自然順応が短歌にあらわれた先生の達観であつた。厳しい雪国の自然とむしろ同化するような生き方をされて、先生は真に北の人であつた。亡くなられる前年にいただいた賀状では「読むからに忘れ去ること多くしと老いたりと思うことのせつなき」と嘆息さ

れながらも、なお達者でおられたが、昨年の春肝不全（あるいは肝硬変）のため入院され、そのまま不帰の人となつてしまわれた。入院中に先生は『新古今和歌集』の中の寂蓮の歌をしきりに口ずさんでおられたと聞く。

暮れて行く春のみなどは知らねども霞に落つる宇治のしは舟
この歌の静かで悠々としているところが先生の自然順応の歌風と共感するところがあつたのであろうか。静けさの内



3月22日、斉藤君が新大内科で急逝した。病名は心不全。我々青山三九会は昨年10月の白勢君の死に次いで、地元旧財閥の御曹子を失つた。彼は表立つことを好まず、あまり同期の会合にも顔を見せてくれなかつた。早く母上に別れ、また姉、妹さんとも

死別したせい、何かしら一抹の寂しさが常に感じられた。然し酒を愛し、俳句に精進する静かな性格ではあつたが内に強い意地を秘めていた。

その後、新潟硫酸がサン化学となり、また此度コープ・ケミカルと社名変更して経営されてきているのも、当時の彼の強い頑張りがあればこそである。知る人ぞ知る。

昭和37、39年、新潟硫酸の特に苦しい時期、地震の為、その再建が打ちのめされた時彼は身を挺して、そのトップとしての重責を果たしてくれた。

冥界のうす明りの中で、白勢、斉藤の両君は何を語り合っていることだろうか。
法名慶讃院釈喜念、御冥福を祈る。 合掌

3月24日、東堀七の彼が生前、特に愛惜の情深かつた本宅でしめやかに葬儀が執り行われた。

その後、新潟硫酸がサン化学となり、また此度コープ・ケミカルと社名変更して経営されてきているのも、当時の彼の強い頑張りがあればこそである。知る人ぞ知る。



青山同窓会第6回総会

《追悼》 斉藤喜十郎君逝く

39回 福山 建

中に不思議な明るさのただよこの歌の風景の奥に先生は浄土を見られたのであろうか。自然順応のゆえに寛容な先生は本気で生徒を叱責される事がなかった。その温厚な人柄のゆえに慕う教子も多かった。その一人、医師の蒲原宏氏（四八回卒）は新潟から看病にもかけつけられ、通夜には「よき人に残して一人梅雨の旅」の句を供えられたと聞く。

新潟中学、新潟高校ボート部OB会である青山艇友会総会が2月16日、新潟市内の田中ホテルで開催された。新潟では22年ぶりの大雪の中、34名の出席者を得て、盛會に終始した。本間校長先生、鎌倉同窓会長、遠くは京都・も若きも飲む程に酔う程に大いに気炎があがった。昔話もさることながら、皆の願いは「現役が活躍してくれることが一番嬉しい」ということ。現役後援のキャンパにはつい財布のひもが緩むといった按配。

ボート部OB会

75回 渡 迎 研

記念撮影後、各グループに分かれて二次会へ繰り出したOBもかなりいた模様。
出席者（写真前列右より）

- 40山田、40中村、40上野、本間校長、鎌倉会長、関川県漕会長、62原、40土屋、45小野坂、45扇、（中列右より）高橋先生、65佐藤、78河田、79上原、65大堀、大橋先生、48都築、58加藤、（後列右より）75渡辺、55砂山、80扇、40小山、80桜井、80佐藤、72富田、69小町、58五十嵐、55高井、54梅沢、53前川、62高見、56荒川、56網干

写真外に中途退出の45鹿取
58年版ボート部OB会名簿を整備中です。事務局から連絡のいっていないOBは75渡辺（95）21新潟市小針台一番十号）まで連絡をお願いします。



卒業50年 全国から集う 遺族も参加 第40回同期生総会

青山の孝び舎出でて、いそとせの おもひ ここだくなんだ(涙)さんぜん

これは昨年の六月亡くなった同期塚野君への拙ない弔歌による電文である。

彼は一昨年夏東京より夫人同道で小林ホテルでの同期会に参加したものであったが、

われ等昭和八年卒業者は入学時二五九名、現在居住明確者は一二三名、物故確認者は八二名、昨年の母校創立九〇周年式典に参加した有志が、

来年は我々の総会をやるう、広く全国に檄を飛ばそう。併せて物故者の慰霊祭も行なおう。遺族にも案内しよう。記念誌も出版しようとい互いに誓い、意気昂扬、冒頭の弔歌の下の句を変え、「憶いくさくさ 心昂まる」と、とつさに

盃をあげつつ壇上で絶叫したが、昔ならば古稀に近く、枯淡なるべき年輩が、いかに日頃ピエロをもつて任じているとはいえ、噴飯もの。当時大方の失笑、爆笑を買ったものであった。尤も筆者は、式典終了後上京して遺族に挨拶し、件んの弔歌を携行の矢立より毛筆を抜き、厚顔色紙にしたため塚野君の遺影の前に捧げ深く頭を垂れてお詫びを

しては来たのであったが、

爾来西大畑の同期会事務局に小島君ほか八名の世話人が何回も集まり協議を重ねたうえ、2月24日には東京プロック(片桐幹事新潟より参加)

3月12日地元と同期会を重ねて根固めにつとめ、いよいよ総会の運びに到った。

とき、雪都新潟は薫風新樹をわたる最適の5月18日、ところ、新潟駅前第一福村協の2Fホール。一泊二五〇円の宿所も幹施するなど、飄乎

名を含めて三四名、計四五名の参加を見るところとなった。慰霊祭は内藤君が与板より仏具、独自口訳の正信偈、啓自文を作成のうえ導師をつとめ、同期生による作品の展示会は、東北電力グリーンプラザで6月12〜16日に新潟日報出身三氏の展覧会を開く準備多忙の中に絵画を佐野君が写真は三越百貨店等で度々出品入賞するこれもその道に令名ある竹林君が。

式次第と、物故者芳名等の揭示、揮毫は坂井正明等、また会場の準備設営等は遠路参加者、その夫人、遺族を含めて同期生関係によって自発、積極的に。壮嚴の慰霊祭、宴席は、卒業後全く五〇年振りで会う者も多く交歓尽きず。値千金の春宵はいつ果てるともなく、その終了が惜しまれた。

母校一〇〇年「祭」はまた揃って元気で。いやその前に我々の五五年総会をやるう、幹事ごころうだが頼むよ、の

声もあがった。

なお記念誌については紙面の都合もあろうから省略するが、内容は必ずしも優等生の綴り方を求めず、ユニークの結果を産み、編集者も自負しているのみ附記するに留める。

(飄乎庵 井上三郎)

庵流の執拗なる出席勧誘を再三重ねた結果か遠くは尼ヶ崎、京都、鎌倉、船橋(夫人とも三名)都内五名、県内遺族二

三九会は咲花で

39回 福山 健

3月9日、午前11時30分、マイクロバスで新潟駅前出発。一行13人(川崎君は現地参加)今年から卒業回数に因んで「3月9日」に年次例会を開いてみたもの。今回は近郊で「一浴清談」と趣きを変えてみた。

佐取館のマイクロバスは馴れた県道を一路咲花温泉へ、車中早くもワンカップの日本酒で前景気。まだ桜の花には早すぎるが早春の阿賀は悠々と水量も豊かに流れている。宿に着き、すぐ風呂に入る。

翌朝は朝酒を飲みながら、戦時中貨物船の事務長だった山下君(彼のロビゲはそのなごりか)は海上での終戦秘話を語ってくれた。

当日の出席者 佐藤裕雄、山下八郎、小林清市郎、小武内尚三、高橋新一、岡崎清彦、皆川登良夫、皆川竹次郎、石高信司、金内一雄、吉田二郎、五十嵐健治、川崎孝治、福山健、以上14名



もう皆70才近いのに大元氣。何も大して衰えていない。新中二年生の修学旅行は会津若

在京46回生の集い

46回川上慎三

第2回目の在京46回生の集りが持たれるそうなので、君一つ行つてくれんかと、高橋(是)君から電話が掛かって来た。奴は、こういうことに関しては人をアジる妙技を持つち合せているわいと思いつつも、自分も同窓会や同期会の類は嫌いな方ではないので二つ返事でOKした。

暖冬異変といわれていたが一転して越後特有の厳冬となり、しかも戦後二番目のドカ雪が新潟を襲ったさ中の上京とはなった。

開通以来未だ日の浅い上越新幹線で雪国から長いトンネルを抜けると、そこはまぶしい快晴だったと、川端康成の逆を行く結果となった。

時は2月25日(金)、会場は新橋駅前の中華料理店新橋亭、第一回もこの店で、来年もまた、ここぞさうだから、会場は固定されているようだけれども一つの方法であろう。

総勢13名、幹事は浜田、福島(旧姓田崎)それに山田の三君、在京者名簿に載っている者38名から見ると一寸淋しい気がしないでもないが、今

後の隆盛を期待したい。定刻、浜田幹事の司会で開会、遠来の客ということで、最初に川上が在京46回生の状況、昨秋の母校創立90周年の様子、それに母校の近況等を報告した。次いで富所君が、東京青山同窓会から連絡事項、浜田幹事から在京46回生



の連絡事項、就中、林潔君の訃報の披露があり、何等かの形で弔意を表しようということになり幹事に一任された。続いていよいよ緑酒を傾けての宴に入った。卒業以来始めての宴に入った。卒業以来始めての宴に入った。卒業以来始めての宴に入った。

いに肩を叩き合った。杯が進むうちに、富所君が事もあろうに我々が畏敬して止まなかったシャモこと斎藤栄治教官のお宅から通学した経緯、浜田君が先般亡くなった前新潟市長の川上喜八郎さんと青陵文庫(何と懐しいことよ)の委員として席を同じうしたこと、村山君が何時ぞや母校の附近を訪ねたところ、色々な建物が立って校地が狭くなっていったが、あれでは生徒は伸び伸びとした学校生活を送れないのではないかと我々の頃に比べて誠に気の毒である等々、話は尽きず、あつと言つ間に時間のみ経過してしまつた。最後は応援歌と「玲瓏の天仰ぐ時」の斉唱でしめくり、またの再会を約して夜の東都へと散つたのであつた。

その後、浜田幹事から懇切丁寧なこの会の会計報告と、次回は来年の2月24日(金)午後6時から同じく新橋亭で行う旨の連絡があつた。幹事のご苦勞に感謝し、今回の盛會を祈つて筆を擱く。

写真、左から(前列)、福島小熊、川上、梅村、(中列)浜田、下、小柳、富所、出田(後列)山田、村山、斎藤(後)上杉、以上13名

山形大学医学部 青山同窓会

58回 渡辺好博

山形大学医学部は、年2回青山同窓会を開いています。毎年のように新人が入つて来て、現在学生8名、教員18名に達しています。教員のうち教授4名、助教授2名、講師2名となつて居り、後輩の加入を期待しています。

新潟から車で3時間、スキ一と温泉と果物の田園都市山形の発展にも力をかけて下さい。



会員は、教員(一柳邦男、加藤 滉、小池吉郎、木村洋、

先輩よろしく

86回卒5組より

86回 山田治之

渡辺好博、渡辺秀雄、高橋知香子、遠藤晃、田中龍夫、川上千之、八木直幸、斎藤伸二郎、八幡芳和、山谷忠一、今井高二、藤森克彦、布施明、星徹、(学生)中野達也、小林辰次、小池修治、斎藤貴史、ひお訪ね下さい。

伊藤正尚、樋口健史、佐藤克郎、植木謙、(以上です)尚、一柳邦男教授は麻酔学担当で、現在医学部長としての重責をはたして居られます。こちらへおいでの節は、ぜひお訪ね下さい。

昭和54年3月卒の我々86期生は、順調に進学した者が、漸くこの春に社会人の仲間入りをするという、まったくの弱輩であり、青山同窓会の中では、差し詰めまだオムツがとれぬ、といったところでしょうか。

それでも、卒業して間も無い、皆の連絡は頻繁であり、文系、理系、各5クラスとも、それぞれクラス会を賑やかに催しているようです。

我らの旧5組も、担任の小泉先生をお迎えして、毎年夏に、少い予算を若さで盛り上げ、大いに楽しいひと時を過ごしております。

昨年、8月に市内の某レストランに集り、就職活動その他でやむを得ず来られない者もあれば、この日に合わせて帰省した者もあり、宴はた気分よかったですか。



ちまち盛り上ります。卒業してから僅か4年というのに話はずみ、交わすよりも青山の一員としてよろしくご指導お願い申し上げます。

昭和58年度 教職員の異動

- 共通一次試験の一期生として、世間からも何かと注目されている我々ですが、今後とも青山の一員としてよろしくご指導お願い申し上げます。
- 転出(全日制)新任校
校長 本間 忍 退職
教諭(数)土肥 啓一 村上高
" (体和泉誠一 中条高定
加治川分校教頭
" (林)打越輝郎 青山少年研修センター
" (柴)柴野章一郎 新発田高
" (家)佐野京子 退職
" (通信制)
教頭 瀬戸正保 西川竹園 校長
教諭(数)大橋禎助 退職
- (6面7段目へつづく)



画人笠原轅と その父漁村(三)

60回 小林 智明

新潟中学校々友会誌『遊方会雑誌』をひもとくと、漁村は着任早々第七号に投稿した「紙説」を初めとし、第八号(明治三十三年十二月発行)には「新潟中学校雑誌十律」という七言律詩を五首、次いで翌三十四年七月発行の第九号に、同稿五首を投稿している。その後も熱心に投稿して、漁村渡辺襲の名は頻りに登場する。その中には当時を知る上に貴重な資料も見える。それらを追ってこの先生の残した足跡を偲んでみたい。

「新潟中学校雑誌十律」は、十首をみなここに記載したいところであるが、長いので当時の我が校の近辺や、校風などを窺い知るに適當と思われる次の二首を抄出してみよう。

新潟中学校雑誌十律 名誉会員 渡辺襲

爽塏四囲松作林 爽塏たる四囲 松は林を作し
映窓蒼翠自櫺櫺 窓に映する蒼翠 自ら櫺櫺
樓取遠景江山麗 樓は遠景を収めて 江山麗はしく
境接平蕪烟霧深 境は平蕪に接して 烟霧深し
孜孜須存經世志 孜孜として須らく存すべし 經世の志
循々敢倦育英心 循々として敢て倦まざる 育英の心
一堂上下分南北 一堂 上下 南北に分かれ
大氣流通暑不侵 大氣流通して 暑 侵さず
○爽塏(そうがい)——高燥で明らかな土地。高台の土地。
○櫺櫺(しょうしん)——草木の盛んなさま。○平蕪(へいぶ)——遠く広い野原。○孜孜(しし)——つとめはげむ。○循々(じゅんじゅん)——順序正しく。整然と。

この詩から察するに、当時の新潟中学校の校舎は、松林に囲まれた爽塏の地に在り、遠くは越後連山、近くは信濃川の美しい風光を望み、隣接には野原もあり、時には烟霧

深くたちこめることもあった。正に「霞棚引く青山」であったのである。

瓦屋層々碧作鱗 瓦屋層々として 碧 鱗を作し
同窓長幼日相親 同窓 長幼 日に相親しむ
奉庸勅旨期三育 勅旨を奉庸して 三育を期し
遵守校規明五倫 校規を遵守して 五倫を明らかにす
湖畔松常持正節 湖畔の松は 常に正節を持し
園中花忽委輕塵 園中の花は 忽ち輕塵に委す
文中寓武邦家固 文中 武を寓して 邦家を固め
不是青衿記誦人 是れ 青衿記誦の人ならず
○三育——智育、体育、徳育をいう。○五倫——人のよるべき五つの道。父子の親、君臣の義、夫婦の別、長幼の序、朋友の信。○邦家——くに。国家。○青衿(せいぎん)——学生。若者。○記誦——記憶と暗誦。

当時としては、関屋の里に瓦屋層々、雲を碧い鱗のようにそびえたてていた新潟中学校、そこに集った先輩俊英の勉学ぶりを詠じている。湖畔の松とあるように、当時は小さな流れが学校の近くにあつたらしい。

次に注目すべきは、遊方会雑誌第十一号に漁村が投稿した「佐渡日詩」である。これはその年、明治三十五年の六月十日より十六日まで一週間、五年生三十九名を引率して佐渡に修学旅行をした時の、全漢文の紀行詩文である。一行は両津より新穂、清水寺、根本寺、長谷観音、真野妙宣寺、檀風城趾、国分寺、真野皇陵、国府川、八幡、河原田獅子城趾、沢根、二見、春日崎と歩き、十三日には漁村の郷里相川に入り、更に十五日には金北山に登り、十六日に両津夷港より新潟に帰港している。

故郷佐渡より、新潟に移り住んで二十年にもなっていた漁村にとって、この行は実に感慨深い帰省となつた。事実この「佐渡日詩」は、七言絶句四十、七言律詩四、五言律詩一、合計四十五篇の詩文より成り、行く先々で郷国、故郷の感懐を詠じて味わい深いものがある。今その序文と、四十五篇の詩文の中から、漁村と深いか、わりのあるところを、ここに抄出してみることにする。先ず序文には

今茲壬寅(明治三十五年)、我校例に依り、修学旅行の挙有り。余また同僚深沢、内田、岡村の諸子と、五年級三十九名を率い、佐渡に航す。顧みれば余新潟に移りて以来、已に二十年。親戚故旧死散して略盡き、独り姉氏一人有るのみ。俯仰今昔、恍として夢寐の如し。覚えず浩歎す。然れど此の行、姉氏を省し、先塋を拜す。また是れ望外の喜事。乃ち詩を以つて実を序し、併せて感を紀すと云う。

とある。漁村には兄の潜と、二人の姉がいたが、兄と上の姉はずでに世に無く、ただひとり相川に残る下の姉を、姻家の長谷川氏に訪ねた。それと漁村が生まれる前に亡くなった父、父に代り養育してくれた祖父らが眠る渡辺家の塋地に詣で、香華を手向けたことが何よりの喜びとなつた。六月十日に新潟を出航すると、「船中、生徒の唱歌を聞く」という詩がある。修学旅行の学生達の歓声が聞こえるようである。

満天烟霧白濛々 満天の烟霧 白濛々
忽見紅暎閃曉風 忽ち見る 紅暎の曉風に閃めくを
三十九名同臭味 三十九名 臭味を同じうし
一斉唱和一船中 一斉に唱和す 一船の中

両津に着くと、漁村はその昔教えをうけた円山溟北の碑を弔っている。即ち「溟北先生の碑に謁す。先師の碑は溟町妙法寺に在り。先生は明治廿五年五月卅一日を以つて歿す。相川愛宕岡に葬むる。門人相謀りて特に重野成齋に文を請ひ、茲に碑を建つ。蓋し斯の地以つて先生の郷曲に係る也」と次の詩を賦して恩師を追懐している。

総角年来侍講筵 総角の年来たりて 講筵に侍す
音容入夢尚依然 音容夢に入りて 尚依然たり
豐碑映帶湖山碧 豐碑映帶す 湖山の碧
便是先生好墓田 便是 是れ 先生の好墓田

(以下次号につづく)

(5面7段目よりつづく)

教諭(数服部潔治) 新津高
" (体)山田 稔 西新発田高
" (英)水沢敏寛 新潟南高
" (商)田中計司 新発田商業
(事務)
主任 本田 禮 加茂農林
主事 山根美智子 退職
" 高橋ナエ子 巻土本 庶務課主任
用務 吉井レツ 退職

転入(全日制) 前任校
校長 鈴木昭二 高校教育課長
教諭(数)星野弘数 新潟南高
" (体)山中直樹 新潟東高
" (体)石井 登 塩沢商工
" (英)石田修治 新発田高
非常勤(家)田代美英里 新潟中央
(通信制)
教頭 青木篤良 見附教頭
教諭(数)藤井 光 沼垂高
" (数)長野桂嗣 新潟中央
" (体)中村直輝 燕工業
" (英)山本虎男 新潟中央
" (商)中藤 農 新潟商業

(事務)
主任 大石節雄 新潟土木
" 中村成子 吉田養護
主事 木村節子 はまぐみ
" 原田 芳 福利課
用務 土橋 勲 新潟中央



青山バスケットクラブ 母校籠球部創立60年を祝う



青山バスケットボールクラブ会長 堀 保利 (34回卒)

青山バスケット、クラブでは母校の籠球部が創立されて今年で60年(大正13年、甲子年)になるので、それを祝って記念事業を行った。特に若

い会員の希望を容れて、現役選手を中心に他高校との親善試合をすることにした。
新潟市内よりベスト8チーム、市外より4チーム、県外より4チーム招待しての催しであった。
県外からは東海の雄、岐阜農林高校チームを特別招待チームとして、このチームとの試合を中心とした。
期日は学生の春休み中の4月3日・4日とし、会場も県高の体育館の外、商業や南高、北商の体育館をお借りした。
大会とか、選手権とか勝敗を中心とした試合でないのになごやかなうちに然かも真剣な試合が行われ、現役選手に對し大きな刺激になり、又親善の実をあげて誠に有意義であった。それに混って女子選手も沼垂高校と好ゲームを展開した。
この親善試合の終了後、青山会館で総会を開き、六十年記念式と懇親会を開いた。特に今回は部の創設者であり初代のキャプテンであった長谷川政二氏(32回、長岡市在住)の出席があり意義が深かった。
青山クラブが創立されたのは昭和5年で、その年から戦争まで10年以上に亘って県下中等学校のバスケットボール



61回卒業生30周年記念同期会開催

大会を丁度夏休みの合宿練習の終った頃を見計らって、8月22・23日に開催して関係方面より期待された権威ある大会であったが戦争のため中止した。

今後この親善大会を青山クラブの事業として毎年開くことを申し合わせた。
恩師の先生方を含め70余名で、6月18日鍋茶屋にて開催卒業後初めて逢ったという者多数、名札と顔を照合しな

多数参加賞に関する私案

38回 近藤 圓

例年夏の同窓会では、「多数参加者賞」という表彰を行い、出席者の多い期から第5位までに賞品を出している。これは出席奨励の意味で面白い企画であるが、考えてみると公平を欠く不合理さがあるように思えてならない。
(その目くらまを立てるほどのことでもないと言えば、それまでだが……)
たとえば私のように、昭和一ケタ以前の卒業生は、既に七十歳を超え、然かも戦死、病死者も相当多く、また卒業生の絶対数でも二百対四百と倍半分の差がある。これらを何のハンデもつけず、同列に

がらなつかしがることしきり。紅顔可憐の昔とはほど遠く顔を見ればどちらが先生かわからず30年の年月をしみじみと感ずる。校歌、応援歌の合唱のあと、ほとんど二次会場(八郎津古)へ、又応援歌。5年後の再会を約束し、名残り惜しみながら解散。
この同期会を記念して、母校の新体育館の備品代(学校と検討中)として金30万円也寄贈。
即ち第1回に持ち点91を与え以下回数が多くなるに従い点数を減らし、今春の91回を1点とする。
そうすると昨年の1位61回は持ち点31と出席78名で109点、3位の65回は27点42名で69点となる。
これに對し昭和一ケタ組の40回は52点で出席23名75点、昨年の三位よりも上になる。
尚一番古い鍵富会長も19回だから持ち点74点で1名出席だから右の40回と同じ75点となるから、古い先輩にも公平に受賞の機会が与えられる。
以上のやり方で行っても、昨年の61回は依然一位のダントツで素晴らしい参加者であった。そしてこの方式によれば、我々ロートルにも可能性が生ずるので、大いに励みになり、出席総数も一段と向上するのではないかと思う。当事者のご一考をお願いしたいものである。
新潟県高校軟式蹴球大会
女子個人戦で初優勝!!
前衛三浦彩子2年、後衛武藤富美子3年の本校ペアは、表記大会で、七回戦を勝ち抜き、決勝に進出、西高花田、町田組に對戦。4対1で初優勝(8面4段目へつづく)

ハイティーン水泳 新中・新高③

60回 平田 大 六

7 下積み選手

競泳選手にとって、夏休みという最も大切な時期にズツコケた罰が、最下位というものにならなかつた。

選手は五つに区分けされていた。まず正選手は、自由型の短距離と長距離、背泳、平泳の四つだ。それに、正選手になれない組で五つである。

五つ目の組は「雑魚ざこ」とか、「残りの組」と呼ばれて「差別」された。

練習は正選手本位で、これが全部終ると「つき残りの組」という声がかかって、ぞろぞろとスタート台にでてゆく。コースは六本しかないが、この組だけは、十人位いてもコースに二人もいれられて、たいていは一回でかたづけられる。

私は、くる日も、くる日も「雑魚」の組で、しかもその中で、一番スピードが遅かった。入学直後、はなはなしく泳ぎ、特訓まで受けた期待とシゴキの中の三カ月間の業

光はどこへ去ってしまったのか。もう上級生は、いちいち私のフォームをみてはくれないようになってしまった。

それでも、シーズンオフになつて私はほっとした。水からあがってしまえば優秀はない。オフのトレーニングは、主として海浜でのサッカークラフトだ。コートの大ささなど、いいかげんで、極端に広いのだ。砂だからボールはよく飛ばないし、スピードも出ない。

いくら頑張っても、足が砂にめり込んで疲れる。ただへバリさえすれば良いのだという。最初の頃は、校庭でサッカーをさせられたが、途中から関屋浜にかわつてしまった経過が、その目的を物語っている。

私はやけくそに球を追ひ、砂浜であえいだ。

8 学年旅行と酒

新中二年のとき一泊旅行があった。行先は米坂線荒川峡の湯沢(ゆざわ)温泉である。これは私の村だった。旅行の近づいた日、私は担任の先生に教務室へ呼ばられた。こんなことは今までなかった。不安が高まっていた。教務室へ入ると、予想していた光景とちがうのだ。私を待っていたのは、担任の先生だけでなく、そのまわりに同じ学年の先生がずらりと立っていた。あれほど威厳のある先生達が、ソワソワして落ちつかないのである。

あらたまって、きりだされた話はこうだ。旅行に湯沢温泉へゆくのだが、先生方の飲む酒が手に入らない。平田の家では酒を造っているから、それをもってこい、というのだ。

戦争に負けたばかりの頃で米も少ない時代だ。米で造る酒だつて不足している。さすがは先生の目的のつけどころが立派であった。家の人に頼んで、売ってくれやな、と先生は懇願する。私は教務室を出た。

これほど立場を逆転して優位に身を置いたことは、これを含めて母校では三回しかなかった。あとの二回は高校になつてからだだが、若い体育の先生がプールへ来られ、平田よ泳がせてくれや、と云われ、先生、インキンならだめですよ、ときり返し、中央高校生の前でその先生の顔をあかく



させたときだった。もうひとつは、私が発掘したメノウと黒曜石のきれいな二つの石器の鉄(やじり)を執拗(よう)に乞われて、美術の先生におあげしたときである。さて、先生方が、私のもつていった日本酒を山の温泉宿でどのようにして飲まれたかはしらない。旬日後に、母から便りがあつた。それは、酒代を払うのは失礼と思うので、ちようだいするとう意味のていねいな札状が担任の先生から届いたと書かれてあつた。

昭和57年度 青山同窓会費納入者追加分

(1月より3月までに納入のもの)

(郵便振替口座 新潟5-4455青山同窓会) (第四銀行学校町支店口座 275210青山同窓会)

会費納入のお願い 年会費1口1,000円 できるだけ1人2口でお願いします。 納入先 新年会・総会の会場 又は母校同窓会事務局へ

Table with 9 columns for names and membership details. Includes names like 茂助, 貞之, 重之, 徳佐, 重之, 徳佐, etc., and their respective membership numbers and names.